

1 ローテーション時におけるスタッフ教育の工夫

～患者個々のシャント血管走行表を作成して～

国保依田窪病院 透析室 翠川基子、翠川孝子、児玉清子、笠原久子、竹内義明

内科 山浦修一

【はじめに】

ローテーションは、スタッフのマンネリ化を防ぎ職場の活性化を図るよい機会となる。当院でもH12年新病棟設立に伴い定期的にローテーションを組み入れる体制となった。透析室へのローテーション時における不安の一つはシャント血管への穿刺である。内シャントへの穿刺は熟練が必要とされるが、ローテーターは慣れるまで穿刺時の不安が強い。しかし、従来は明記したものがなく、口頭だけの指導が主であった。そこで、当院ではシャント血管走行表を作成し、教育を行い事前学習ができるようにしたところ、効果的であったのでここに報告する。

【方法】

- ① 現在維持透析をしている52名に対し個々のシャント血管走行表を作成した(図1)
- ② ローテーターは看護記録の中にある走行表を参考にして事前に学習できるようにした
- ③ 血管の走行のわかりにくい患者にはシャント造影を行い血管の状態を確認しカンファレンスにおいて全員で検討した
- ④ 穿刺部位を透析記録に毎回記入した(図2)

【結果および考察】

新病棟設立以前は透析部門へのローテーションが少なく、固定したスタッフにより行なわれていたため、シャント血管について明記されたものがなくてもそれほどの支障をきたさなかった。しかし、定期的なローテーションを組み入れる体制となり、指導する上で、患者個々の血管の走行、特徴、穿刺部位が一目でわかるものの必要性を感じ、シャント血管走行表を作成するに至った。ローテーターは、シャント血管走行表を用いて事前学習することにより、脱血管、返血管を理解したうえで穿刺に望むことができた。あわせて、透析記録に穿刺部位、穿刺方向を記入、記録に残すことにより、同一部位の反復穿刺を避け可及的広範囲を万遍なく使用できるよう、スタッフ全員でこころがけた。このことは、現在は明確な結果として現れていないが、今後、仮性静脈瘤や血管狭窄などの合併症をできるだけ減らし、透析患者にとって命の次に大切なシャントを長持ちさせることにつなが

ってゆくことと思われる。また、シャント血管走行表の作成、透析記録へのブラッドアクセスの記入を取り入れたことは、ローテーターへの指導ばかりでなく、スタッフ全員が統一したケアを行うのに役立った。

【まとめ】

透析療法がいかに進歩してもシャント血管を穿刺して血流をとるという操作は変わらないであろうと思われる。患者様にとって命綱である大切なシャントを我々の不注意や配慮の無さで損傷をするような事があってはならない。その為にもしっかりとローテーターを指導し皆が同じレベルで穿刺を行えるようになっていかなければならない。シャント血管の状態をよく検討、把握し一回でも穿刺ミスを減少させる努力をしていかなければならないと考える。

【結語】

- ① 個々のシャント血管走行表を作成することによりシャントに対して統一したケアが行えるようになった
- ② ローテーターからは穿刺する部分が早めに理解できた事により個々の血管状態にあわせた穿刺ができるようになったとの声が聞かれた
- ③ シャント造影を見る事により血管の状態が今まで以上に理解できた
- ④ 前回の穿刺部を確認することにより、反復穿刺を避けることができた

参考文献

- 藤森 明 ブラッドアクセスの作成と管理
透析ケア 1998 Vol4
透析ケアマニュアル 照林社
透析患者の看護 日本メディカルセンター

図 1

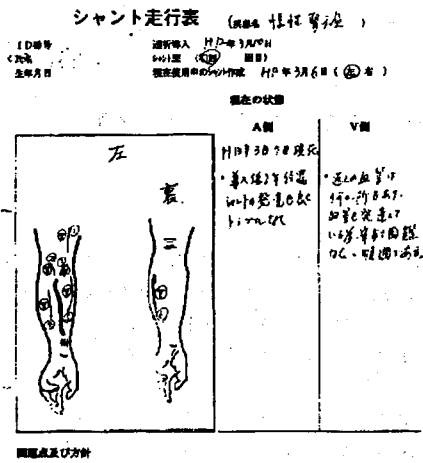


図 2

